

わたしたちの人権

147

誰もが人間として生きていくうえで
 侵すことのできない当然の権利
 これが『人権』です

本年も、5月20日(土)に矢部中学校体育館において第22回「5・23差別をなくす山都地区集会」が開催されました。保育園児や小中学生、保護者、教師など、約500名の参加者がありました。

本集会は部落差別をはじめ、いじめや仲間はずしなどのあらゆる差別をなくしていくことを目的に、子ども達が主体となり、大人も共に学び合う場として開催されてきました。

オープニングは、「差別をなくすエネルギーをこの地から隅々まで響き渡らせよう!」という願いを込め、矢部太鼓の子ども達が、力強いパチさばきを披露しました。

続いて、1分間の黙祷のあと、山都みらい保育園の園児や先生が「どろんことたいよう」「にんげんって

いいな」「にじ」の3曲を合唱しました。

決意表明では、「解放子ども会中学部」が同和保育所の開設の意義を発表しました。

また、蘇陽小学校からは、学習教材「たぬき村」について発表し、生徒一人ひとりが作文を読み上げました。

集会に参加した子ども達からは、蘇陽小の発表を聞いて「人権の大切さ」について思ったことや感じたことなど様々な意見が出ました。大人の参加者は、子ども達が会場の前列にずらりと並んだ姿と、純真で力強い発表に感動し、元氣をもらいました。

今や、保育園や学校では、この「5・23差別をなくす山都地区集会」を人権学習の集大成として捉え、取り組みを深めています。その成果として、子ども達は

「おかしいことはおかしいと言える力」「差別は絶対許さないという意識」を確実に身につけています。

しかし、同和問題に対する予断や偏見はまだまだ根深く、差別意識が残っているのも現実です。あらゆる差別意識をなくすためには、引き続き教育・啓発が重要です。この純真な子ども達の心を汚すことがないよう、大人も真剣な学びが必要です。

SアンケートからS
【小学生】 部落差別をしてはいけないと改めて思っていた。差別をしないようにしたい。

【中学生】 差別・偏見はいけないと言うことは簡単だけど、行動することは難しいと思う。僕は、行動に変えることをしっかりと心がけていきたいと思った。

【10代】 差別をなくす為の意識・行動の再確認が出来るので、集会が毎年開催されることは良いことだと思ふ。

【20代】 部落差別だけでなく、いじめ等についても理解を深める機会になる

のだとわかった。

【30代】 中学生の感想にあった「この集会に参加しても差別はなくなるらない。学んだことを伝えていくことが大切」、まさにその通りだと思った。

【40代】 子ども達のように自分も事実を学び、自分の考えをしっかりと持ち伝えることができるようになりたい。

【50代】 いじめ、差別をおかしいと思い、声を上げることが勇気があることもあるが、負けずに主張しなければならぬと感じた。

【60代】 この集会に参加することで、差別が現存することを改めて再認識させられる。差別の解消に向けて自分が何をすることが大切なのかを考えた。

【70代】 繰り返し学ぶ機会を持つことの重要性を痛感した。

【80代】 差別をなくす素直な子どもたちの努力を、わたしたち老人も同じ心で、地域の中でやさしい仲間づくりをしていきたいと思う。

書道

和光教室書道部

山本 淳子さん (米生) 作
 蘭路肅桂苑

山本 淳子さん (米生) 作

季節のうた

馬見原酔山会

真っ白なシーツに早も 天道虫

工藤美智子

赤しようびんの声貫くや 五ヶ瀬川

高田 真司

採りたてのキャベツを包む 新聞紙

岩永 周子

やまなみの会 「山脈」

今村 芳子

春場所の新横綱の土俵入り

岩村ヨシ子

菊根分けしてある夫に お茶を汲む

橋本 恵子

寄り添ひて静かに咲ける 黄水仙

藤本千代美

芝桜家の回りを飾らんと千本の苗植え付ける日々

古閑比奈子

真冬日に土持上げて水仙は春の準備をひそやかに成す

小野 紀子

体調の少し良くなり久方に畑に出れば梅の花香る

西田えい子

墓石の倒れしままに 花明り

菊池 幸子

木々芽吹く日毎にふゆる 嬰のことは

中村 暢子

路割くや 空母の海を 遠くして

藤本 於蓮

清和短歌会

定まれる刻の電話のベルを待つ伝えたきこと胸に満たして

平川 童

ようやくに脆首あげて床に立つ病の癒えて衣剥ぎとる

渡邊 民生

家族らの願い叶わず折鶴も納めて義妹の棺見送る

山都町の人口

[平成 29 年 5 月 31 日現在]

男 7,495人 (-11)

女 8,097人 (-26)

計 15,592人 (-37)

世帯 6,597戸 (-1)

※ () は前月比

※最高齢は 107 歳 [女性 1 人]

※平成 29 年 5 月の出生者数 12 人

※平成 29 年 5 月の死亡者数 30 人

編集後記

梅雨の時期に入りましたが、山都町ではまだまだ雨の日は少なく、田植えが出来ない地区もあるようです。昨年の熊本地震以降、大雨などの注意報・警報がこれまでより少ない雨量でも出るようになってきました。強い雨が続く場合は、「こん位の雨だけ」と思わず、注意報・警報の情報確認を行い、早めの行動をお願いします。

今月号の4・5ページには山地災害が起こる前触れをいくつか掲載しています。このような現象に気づいたら身の安全を確保しましょう。

また、4月に全戸配布された『防災ハンドブック』(赤い表紙とくまモンが目印)には災害の種類別に、注意事項や避難方法、避難する際の持ち出し品や、家庭の備蓄品などについても書かれています。

本格的な梅雨入りを迎える前に、『防災ハンドブック』で再度確認をされてみてはいかがでしょうか? (坂本)

やまと文化の森 通信

文化交流館 やまと文化の森が開館して2ヶ月が経ちました。一ツ葉高校小倉キャンパスの生徒の皆さんの見学など、多くの皆さまにご来館いただき、5月末時点での入館者数は3,651名となりました。



文化財や史料の展示物の中には、期間限定展示のものもありますので、お気軽にお立ち寄りください。

〒861-3513 熊本県上益城郡山都町下市16番地
 TEL (0967) 72-9400 FAX (0967) 72-9401

スローガン

1. みんな笑顔で楽しい学校 一人ぼっちをつくらない
1. おかしいと思ったことは そのままにしない
1. 差別のない社会を目指して 行動する勇気!
1. 「部落差別解消法」を 実効あるものにしよう
1. 学力保障・進路保障 私たちの闘いで 子どもの未来を切り拓こう



フィナーレは「そんな町を」を大合唱♪